

桃山学院大学教職課程委員会

平成26年度「総合的な教師力向上のための調査研究事業」成果報告書

(文部科学省 委嘱事業)

□■教師力向上プログラム□■

「現職教員と学生とが協働しながら実践的指導力を高める研修の開発」

主催：桃山学院大学教職課程委員会

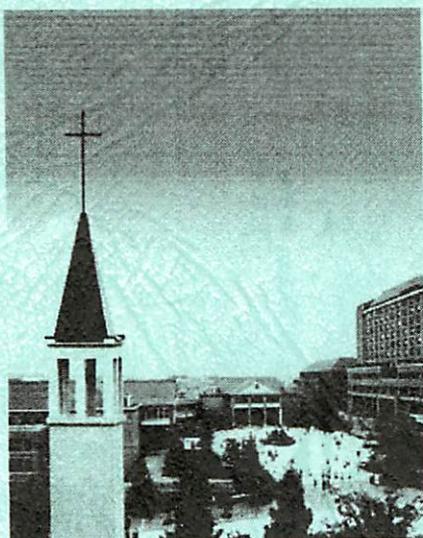
協力：大阪府和泉市教育委員会・大阪府和泉市立緑ヶ丘小学校

◎研修1日目（2014年12月15日）

：講演・合同研修Ⅰ

◎研修2日目（2015年1月15日）

：公開研究授業・合同研修Ⅱ



2015年3月

松岡 敬興

島田 勝正

冷水 啓子

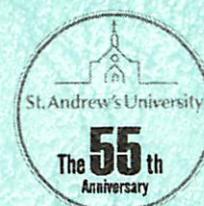
吉見 研次

伊藤 潔志

叶屋 真一

森下 貴史

横田 千尋



Go!Go! Andrew!!

教員研修プログラム開発・概要

◇文部科学省への報告	… 1
◇開催に関わる案内、ほか	… 11
◇講演	
「マザーテレサの活動とは」の記録および補助資料 (伊藤高章 [上智大学神学部教授])	… 15
◇合同研修 I	
「～道徳資料「マザー・テレサ」を教材化～」の記録および補助資料 (小杉磨未奈、乗京亜美、花田大樹 [インド異文化・ボランティア体験セミナー参加学生])	… 27
◇補助資料	
「2012年度・インド異文化・体験セミナー報告書」	… 37
◇アンケート (研修 1 日目)	… 52
◇研究授業に関わる資料 (道徳資料・指導案・補助プリント) (辻本早春 [和泉市立緑ヶ丘小学校教員])	… 53
◇研究授業	
「ゲスト講師：～マザー・テレサの活動とは～」の記録および補助資料 (花田大樹 [インド異文化・ボランティア体験セミナー参加学生])	… 58
◇合同研修 II	
「道徳の授業づくり」に関する補助資料 (杉前洋 [和泉市教育センター指導主事])	… 61
◇アンケート (研修 2 日目)	… 63
◇アンケート結果	… 64

(文部科学省 委嘱事業)

総合的な教師力向上のための調査研究事業
(平成26年度 教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発)

報 告 書

プログラム名	現職教員と学生とが協働しながら実践的指導力を高める研修の開発
プログラムの特徴	
<p>現職教員の実践的指導力の向上をめざし、和泉市教育委員会の教員研修プログラムと連動を図り、教師としての使命感や倫理観を高める。また教職課程履修生が参加することで、現職教員との間での意見交換を深め、教師として必要な資質・能力について、実感を伴う気づきを促す。加えて本事業を通して、大学における教職課程の各授業と和泉市教育委員会が行う研修プログラムとを効果的に連動させる方途について一定の道筋を見いだす。</p>	

平成27年3月

桃山学院大学 教職課程委員会

I 開発の目的・方法・組織

1. 開発目的

現職教員の実践的指導力の向上をめざし、和泉市教育委員会の教員研修プログラム（「道徳教育推進教師研修会」、ほか）と連動を図り、教師としての使命感や倫理観を高める。また教職課程履修生が参加することで、現職教員との間での意見交換を深め、教師として必要な資質・能力について、実感を伴う気づきを促す。加えて本事業を通して、大学における教職課程の各授業（教職に関する科目として、「道徳教育の研究」、「教職実践演習」、ほか）と和泉市教育委員会が行う研修プログラムとを効果的に連動させる方途について一定の道筋を見いだす。

本事業では、道徳教育に着目する。道徳の教科化の審議が進められる中で、「道徳の時間」を展開する教師の指導力が問われている。「道徳の時間」で扱う資料について、教師はそのねらいに近づくために、自らの経験値と照合させ、その本質に近づこうとする。それを支援するのが本事業のねらいである。

取り扱う資料は、「マザー・テレサ」である。真のボランティアとは何か、慈愛の精神は教育者として、子供たちと向き合ううえで欠かすことのできない資質であることから、本物を体感し追体験できるレベルまで高める。決して活字で説明された解説書からは体得し得ない、参加者（インド異文化・ボランティア体験セミナー）自らの実体験に基づく語りを生かすことにより、学習指導案づくりを全うするとともに、慈愛の精神に満ちた教師として、改めて望ましい子供たちとの対峙のあり方を見つめ直す機会と位置づける。

2. 開発の方法

①研修プログラム（1日目）

a. 講演「マザー・テレサの活動とは」（50分）

（上智大学神学部教授 伊藤高章 氏）

b. 合同研修 I 「マザー・テレサの教材化」（80分）

・インド異文化・ボランティア体験セミナー参加者からの体験談

（小杉磨未名 さん、乗京亜美 さん、花田大樹 さん）

・学習指導案づくり

（和泉市教育委員会指導主事 杉前洋 氏）

現職教員と教職課程履修生が合同で、道徳教材「マザー=テレサ」（光村図書）を用いて、そのねらいについてグループ学習に取り組む。

②研修プログラム（2日目）

a. 授業実践

○公開研究授業〔辻本早春 教諭，ゲスト：花田大樹 さん〕（50分）

※現職教員および教職課程履修生は、授業を参観する。より望ましい授業づくりをめざし、自らが作成した指導案との比較・検討する場とする。

○研究協議（80分）

- ・授業実践者からのふりかえり
- ・参観者からの意見交換

※各自が作成した指導案をもとに、より望ましい授業展開のあり方について議論を深める。

教職課程履修生から、現職教員への質問等を含めた意見を注視する。

○指導主事からの助言

- ・教材づくりを通して、望ましい「道徳の時間」の学習指導案づくりと教師が子供と向き合ううえで不可欠な慈愛の精神に基づく使命感、寄り添う心を体得できることに注目する。

③その他

上記の日程に加え、教職課程履修生については、「道徳教育の研究」の授業において、指導主事による講義（「道徳の時間の実際（学習指導案づくり）」）を組み入れ、当該研修前の準備を進める。加えて、研修で作成した学習指導案について、授業で分析・検討を加える。

現職教員と教職課程履修生とが合同に介し研修に参画することで、教材作りおよび授業に加えて、教育現場の実際に直接触れる機会を提供できる。また、相互間での意見交換を通して、教師として必要とされる使命感や倫理観の実際について、自ら体感できる場となる。大学における教職課程と市教育委員会の研修プログラム（「道徳教育推進教師研修会」、ほか）とを連動させることが、地域の実態を踏まえた教員養成にも大きく寄与することが期待できる。

3. 開発組織

本プログラムについては、次のような組織で取り組んだ。

○大学側担当者： 桃山学院大学教職課程委員会

委員長	松岡 敬興 [経済学部准教授] (総務・企画・運営・責任者)
次長	島田 勝正 [国際教養学部教授] (企画・運営)
委員	冷水 啓子 [社会学部教授] (企画・運営)
委員	吉見 研次 [法学部教授] (企画・運営)
委員	伊藤 潔志 [経営学部准教授] (企画・運営)
委員	叶屋 真一 [教育支援課々長] (事務全般・文部科学省関連)
委員	森下 貴史 [教育支援課々員] (事務全般・和泉市教育委員会関連)
	横田 千尋 [教育支援課々員] (事務全般・会計)

○教育委員会担当者： 和泉市教育委員会事務局

学校教育部教育指導監	小川 秀幸
教育センター所長	森 正志
同上指導主事	杉前 洋
市立緑ヶ丘小学校々長	樹下 堅

また、研修プログラムの実施にあたり、補助員として大学生を雇用した。

II 開発の実際とその成果

A. 本研修の特徴とプログラム

本プログラムは本学教職課程委員会と和泉市教育委員会との連携のもとで実施した。まず市教育委員会の協力により、現職教員（主として初任者）の参加を促す。本プログラムの実施にあたり、市教育委員会事務局担当指導主事と協働して進めた。本事業では現職教員と本学教職課程履修生とが同席し、意見交換等を通して教師としての使命感や慈愛の心について、内面からの理解を促すことを重視した。

また市担当指導主事を、本学の授業（「道徳教育の研究」）にゲスト講師として招聘し、和泉市における「道徳の時間」の実際について、講義および意見交換を行った。本プログラムにおいても、研修（「学習指導案作り」）の際に、ファシリテーターとしての役割を担当した。

加えて本学国際センター事務課に対して、「インド異文化・ボランティア体験セミナー」の実施に関わる諸記録の提供を依頼した。

B. 研修の内容

以下、研修プログラムについて報告する。

(1) 研修のねらいと実際

「開発目的」に記載した通り、現職教員の実践的指導力の向上、および教職課程履修生に教師として必要な資質・能力について、実感を伴う気づきを促すことを目的とする。教職課程履修生が現職教員の研修の場に参加し、授業づくりに関わる意見交換を行い、大学での学びと教育実践とを往還させ、教師力の向上へと繋げる。

1日目は、道德資料「マザー・テレサ」を題材にした道德の時間を創造するうえで、教材への理解を深めつつ、グループ学習により授業のねらいに着目した意見交換を行った。専門家（上智大学神学部教授、伊藤高章氏）から、講演「マザー・テレサの活動とは」を受けた後、合同研修Ⅰとして「マザー・テレサの教材化」に取り組んだ。その際、現職教員と教職課程履修生との混成グループを編成することで、それぞれの立場から見えてくる道德的価値について、理由づけに基づいた意見交換を充実できた。

加えて、インド異文化・ボランティア体験セミナーに参加した三名の学生からの体験談を通して、マザー・ハウスにおけるボランティア活動の実態の具現化へと導いた。体験談には伝える力があることから、研修への参加者一人一人の心の内面に、ボランティア活動がもたらす潜在的な教育効果の投影することができた。

2日目は、授業者（辻本教諭）による公開研究授業（道德・4年）が行われた。現職教員および教職課程履修生は、授業参観を通して、自ら作成した指導案との比較・検討を行い、より望ましい授業づくりに向けて考察を深めた。授業の終末では、ゲスト・スピーカーとして、マザー・ハウスでのボランティア活動に参加した学生から、活動を通じた自らの変容について語る場面が設けられた。指導者、児童、参観者の誰もが、マザー・テレサの活動がもたらすもの、それは「人はみな必要とされている」との思いであることを実感できた。

研究協議では、授業者からのふりかえり、参観者からの意見交換が行われた。小学4年生を対象にした教材として、発達段階を加味しつつ多様な意見が出された。授業展開については、指導者と児童との関わり方に焦点を当て、主発問、児童の意見の引き出し方、ゲスト・スピーカーの活用、など本授業の特長に着目しつつ、様々な角度からその長短について意見が交わされた。

(2) 対象

- ・和泉市立緑ヶ丘小学校教員
- ・桃山学院大学教職課程履修生（「道德教育の研究」履修者）

人数

- ・1日目(2014.12.15) : 39名（現職教員および教職課程履修者）

・2日目(2015. 1. 15) : 41名(同上)

期間・日程

①2014年12月15日(月) 14:30～

- ・受付 14:30 ～ 15:00
- ・開講式 15:00 ～ 15:05
- ・講演 15:10 ～ 16:00
- ・クッキータイム 16:00 ～ 16:10
- ・合同研修Ⅰ 16:10 ～ 17:30
- ・諸連絡 17:30 ～ 17:35

②2015年 1月15日(木) 14:30～

- ・受付 14:30 ～ 14:45
- ・公開研究授業 14:45 ～ 15:30
- ・休憩 15:30 ～ 16:00
- ・合同研修Ⅱ 16:00 ～ 17:20
- ・開講式 17:20 ～ 17:25
- ・諸連絡 17:25 ～ 17:30

※ 開講式は、研修のまとめを兼ねて実施

会場

・和泉市立緑ヶ丘小学校(〒594-1155 和泉市緑ヶ丘3丁目4-1)

(3)各研修項目の配置の考え方

道徳資料「マザー・テレサ」の教材化を進めるうえで、まずはマザー・テレサの活動について理解を深めるために、専門家からの講演を受ける。さらに、インド異文化・ボランティアセミナーに参加した学生から、マザー・ハウスでのボランティア活動の実際について報告を受ける。発表後、質疑応答の時間を設ける。道徳資料への認識を高めた後、マザー・テレサの教材化に取り組む。ねらいとする道徳的価値をどこに定めるのか、グループ学習を展開し、代表者による発表の後、指導主事からの助言を通して整理する。

1日目の研修を踏まえつつ、参加者一人一人が学習指導案づくりに取り組む。一定期間の後、授業提供者による公開研究授業をもち、現職教員および教職課程履修生は参観する。その際、自ら作成した指導案の展開方法と、授業提供者との比較検討を行い、そのよさと課題について考察する。合同研修の場で、偉人を題材にした授業づくりの視点から、多面的な意見交換を深める。最後に、指導主事から道徳教育がめざすこと、道徳の時間の授業づくりのポイント、など助言を通して理解を深める。

マザー・テレサの教材化に取り組むことで、偉人を題材に扱う授業づくりの基礎・基本を学ぶ場として位置づけたい。

(4)各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

※敬称略

研修項目 (担当者)	時間数	目的	内容・進め方、形態、使用教材
【1日目】 ・講演 (伊藤)	50分	マザー・テレサの活動について理解を深め、その教材化に向けて活用できる。	パワーポイントを用いて、マザー・テレサの活動の光と影の両面から、その特徴について、講義がなされた。
【1日目】 ・合同研修Ⅰ (杉前)	80分	道徳資料マザー・テレサの教材化において、ねらいとする道徳的価値を見据えることができる。	マザー・ハウスでのボランティア活動に参加した学生から、自らの変容を含めた報告がなされた。また、その内容について質疑応答の時間を設けることで、臨場感がもたらされた。 講演や体験談の内容を踏まえつつ、グループ学習を通して、本資料における道徳的価値を考察した。各発表から多様な捉え方に触れることで、偉人教材のねらいの見据え方を習得できた。
【2日目】 ・研究授業 (辻本)	45分	公開研究授業を参観し、自ら作成した学習指導案とを比較検討し、そのよさと課題を見いだせる。	授業提供者が作成した指導案に沿って、公開研究授業が進められた。マザー・ハウスでのボランティア体験がある学生から、児童に自らの経験を通じた気づきや変容についての語らいの時間が設けられた。児童のまなざしが、強く学生に向けられた。
【2日目】 ・合同研修Ⅱ (杉前)	80分	公開研究授業への参観を通して、偉人を題材にした授業づくりのポイントおよび留意点を導きだせる。	授業提供者のふりかえりを踏まえつつ、魅力ある授業の創造に向けて、多様な意見交換が行われた。現職教員の発言が、教職課程履修生に新たな気づきをもたらした。教職をめざす学生にとって、授業づくりの際に何が肝要なのか、その視点について学びを深めた。最後に、指導主事から道徳教育がめざす中身、道徳の時間の授業づくりのポイント、についての助言により、本研修のまとめとした。

●実施の様子

①開講式、講演、合同研修Ⅰ



②研究授業、合同研修Ⅱ



(5)実施上の留意事項

- ・ 現職教員と教職課程履修生の混成によるグループを編成し、研修をグループ学習の形態で進める。教職課程履修生と現職教員との闊達な情報交換を促す。
- ・ 現職教員の研修会に本プログラムを組み入れ、教職課程履修生も合同で参加できるように工夫する。
- ・ 講演は、マザー・テレサの活動について、道徳資料とは切り離し、その光と影の両側面から捉えた内容とする。
- ・ インド異文化・ボランティアセミナーの参加者からの報告の内容は、新たな気づきや自らの変容に着目した内容に特化する。
- ・ 教職課程履修生は、道徳資料「マザー・テレサ」を題材にした指導案を、プログラム2日目までに作成するとともに、その特長について説明ができるように準備をしておく。

(6)研修の評価方法、評価結果

本研修の評価のために、受講者には1日目と2日目の終了後、それぞれアンケートの

記入を求めた。現職教員のみなさんには、後日郵送にて回答を受け付けた。

受講者に4段階で研修全体について評価を求めたところ、(1日目・2日目)それぞれについて、「とても分かり易かった」(4名・4名)、「分かり易かった」(6名・0名)、「分かりにくかった」(0名・0名)、「分からない」(0名・0名)と、全般的に高い評価が得られた。

また、今後の教材づくりに生かすのかについて、「そう思う」(7名・4名)、「どちらかと言えばそう思う」(3名・0名)、「あまりそう思わない」(0名・0名)、「そうは思わない」(0名・0名)と、偉人を扱う教材づくりの指針を示すことに繋がった。

さらに、今後こうした企画への参加については、「是非参加したい」(6名・3名)、「できれば参加したい」(4名・0名)、「参加したいとは思わない」(0名・0名)、「分からない」(0名・0名)と、参加者の向上心を高めるきっかけとなった。

ただ、研修実施期日が繁忙期と重複したこともあり、回収率が低いことから、あくまで傾向としての捉えとする。

C. 今後の課題

本学教職課程委員会と和泉市教育委員会との連携により、和泉市立緑ヶ丘小学校の校内研修に本プログラムを組み入れ、現職教員と教職課程履修生との合同による研修会を実施できた。このたび道德資料としてマザー・テレサの教材化を提案した理由は、マザー・テレサに関する理解を深める手だてを本学が持ち得たことにある。マザー・テレサの活動については、前本学教授伊藤高章氏、加えてインド異文化・ボランティアセミナーに参加し、マザー・ハウスでボランティアを实践した学生たち、それぞれの語りが、マザー・テレサへの理解を深めるうえで、活字からは理解しえないものを提供した。指導者が資料に惚れ込まないと子どもたちに伝わらないと捉えると、本プログラムの独自性を高めることができた。また、偉人を題材にした授業づくりについて、一定の道筋を示唆することができた。

ただ、実施時期については年度当初に双方で協議し、現職教員のみなさんが参加し易い時期を設定することが望まれる。このことは、アンケート結果からも明らかになった。主な意見として、夏休み、土曜日などが寄せられた。

研修の内容については、現職教員のみなさんが求めているものに着目しなければならない。道德教育をはじめ生徒指導(いじめ問題など)、特別活動(学級活動、児童会活動など)、各教科(授業づくり)、など多岐にわたる。研修テーマを固定し、できるだけ多くの現職教員のみなさんに受講していただく方法、毎年異なる研修テーマ

を掲げ、受講者のニーズに応えていく方法、などそれぞれについて長短を吟味のうえ、より望ましい教師力向上プログラムを教育委員会との連携により提供していく必要がある。

今回の取組について再度検証を加え、大学が持ちうる資源（人的、設備、など）と教育委員会が持ちうる資源とを協働させ、現職教員と教職課程履修生の双方にとって学びを深めることができる機会になるような工夫が求められている。その際、大切なことは教師力の向上をめざすための取組であることを念頭に置き、プログラム開発にあたることが不可欠となる。

Ⅲ 大学・教育委員会連携による研修についての考察

今回、和泉市教育委員会との協議を踏まえて研修計画を実施できたことは、現職教員および教職課程履修生の資質・能力の向上に向けて大きな意義があった。また研修計画の作成にあたり、和泉市教育委員会および市立緑ヶ丘小学校には、多大なご協力をいただいた。

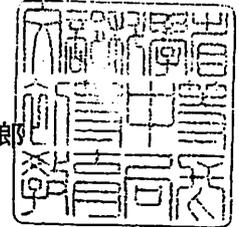
今後、連携を維持・促進するうえで、計画策定にあたり双方の担当者間での合意形成を図るべく、定期的な情報交換・意見交換の場を設ける必要がある。

最後に、「文部科学省、総合的な教師力向上のための調査研究事業」の実施状況について、和泉市教育委員会にも報告するとともに、市立各小・中学校にも報告書を配布する。今後も、和泉市教育委員会との連携のもと、新たな教師力向上に向けたプログラムの開発に向けた体制を強化していくことが肝要である。

26文科初第563号
平成26年7月25日

桃山学院大学
学長 前田 徹生 殿

文部科学省初等中等教育局長
小松 親次 郎



平成26年度総合的な教師力向上のための調査研究事業に係る選定結果について

このたびは、標記事業に御応募いただきありがとうございました。

応募いただいた企画提案について、厳正な審査を行った結果、貴機関の企画提案を採択することとしたので、通知します。

なお、今後の契約手続きについては、別途御連絡しますので、あらかじめ御承知おきください。

【本件問合せ先】

文部科学省 初等中等教育局

教職員課 改革推進係 小田、加藤

電話 03-5253-4111 (内線 2456)

E-mail itakukoubo@mext.go.jp



文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」

2014年 12月15日(月) 15:00～

2015年 1月15日(木) 15:00～

於：和泉市立緑ヶ丘小学校図書室

主催：桃山学院大学教職課程委員会

協力：和泉市教育委員会



Go!Go! Andrew!!

大月書店

…特別講演のお知らせ…



文部科学省

平成26年度

総合的な教師力向上のための調査研究事業

研修企画（講演会）

講師：上智大学神学部 教授

伊藤 高章 先生

〈プロフィール〉

桃山学院大学社会学部社会福祉学科教授、国際センター長などを経て、上智大学神学部神学科教授、グリーンケア研究所教育担当副所長、臨床スピリチュアルケア協会教育担当副代表。

研究テーマは、臨床スピリチュアルケア、宗教間協働、臨床牧会教育、チーム医療、アングリカニズム。主として「スピリチュアリティとケア実践」、「国際サービスラーニング論」の講義を担当。

著書に『対話・コミュニケーションから学ぶスピリチュアルケア～ことばと物語からの実践』、『スピリチュアルケアを語る《第三集》臨床的教育法の試み』、ほか多数。

日本スピリチュアルケア学会（理事・資格制度運営委員長）、関西いのちの電話理事、一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクト社員として活躍。

- ・ 日 時 2014年 12月 15日（月） 15:10～16:00
- ・ 会 場 和泉市立緑ヶ丘小学校図書室
- ・ テーマ 「マザー・テレサの活動とは」

※ 講演開始時間後の入退室はご遠慮ください。



文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」

講演「マザー・テレサの活動とは」

上智大学神学部 教授 伊藤 高章 氏

2014年 12月15日 (月) 15:00～ 於：和泉市立緑ヶ丘小学校

主催：桃山学院大学教職課程委員会

協力：和泉市教育委員会